

<大和平野中央田園都市構想 令和4年度第1回検討会>

テーマ「就学前教育～就学前児童のこころと身体のはぐくみ」で 有識者のコメントや奈良県の取り組みを議論

- ・表題テーマで、本年度第1回検討会が6月30日（木）、奈良コンベンションセンターで行われました。
- ・奈良県の目標とする“全ての奈良っ子が日々喜びや感動にあふれ、将来に夢と希望を抱きながら、健やかに成長することができる地域社会づくりに取り組む”を受けて、留意すべき観点や、どのような具体的な取り組みが考えられるか、が検討されました。



- ・有識者コメントとして、

①東京大学大学院教育研究科：遠藤利彦教授（左上写真）は、人の社会的成功は認知（＝IQ；Intelligence Quotient）ではなく、**非認知（＝EI;Emotional Intelligence 感情知性）**の大切さが見直されつつある。非認知を育む揺りかごは「アタッチメント；安全な避難所・基地（単なるスキンシップではない）」であり、大人の子どもに対する真摯な向き合いが重要である。



②日本総合研究所：池本美香氏（左下写真）は、課題が多い我が国の就学前教育と比較して、海外の、保育の質の確保・保育時間以外の環境、の事例を紹介。子供の環境改善には親の環境改善が不可欠、とコメントされました。



- ・これらのコメントを受けて、“**子供を育てる親が幸せでなければならない**”というキーワードが会場の共通認識となりました。

- ・本会議にアカデミアの立場で参加の細井裕司理事長（左写真）は、“結果がどのようになったかのエビデンスベースでの評価が必要。「育む」と「しつけ」は異なる。「挨拶」を例に挙げ、挨拶ができる人とできない人の差が何から生じるのかの検証の必要性を強調しました。また、必要な教育内容をリストアップし、順位付けして、何から始めるべきか、の検討が重要”とコメントしました。